

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200440
法人名	医療法人社団のぞみ会
事業所名	グループホームあおぞら
所在地	〒270-2223 千葉県松戸市秋山48-5
自己評価作成日	令和3年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.minnanokaigo.com/facility/022-1291200440/">https://www.minnanokaigo.com/facility/022-1291200440/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和3年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心して楽しく、ゆったりと、自分らしく生きていく家を提供したい」、そんな想いから生れたのが、グループホーム あおぞらです。日々の良い一軒家で、掃除や洗濯、食事の支度などの日常生活を通して、お一人お一人に合ったプランを組み立て、じっくりとケアを提供しています。入居者様、ご家族、それぞれの思いや希望をお聞きし、①笑顔と笑い声のある生活 ②生きていると実感できる生活 ③持てる力を発揮できる生活の理念をスタッフ全員で共有し、日々の生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である、「笑顔と笑い声のある生活」「生きていると実感できる生活」「持てる力を発揮できる生活」の持つ意味を職員全員がよく理解している。あらゆる事において、「本人の気持ちになって考える」を実践し、利用者の言動の背景にあるものを探り出してケアすることを職員は自信をもっている。入居間もない大声で騒ぐ利用者に対しても粘り強く支えることで2ヶ月で収まり、今では積極的に仲間入りしている。また、組織内では自由に意見が言える風通しのよい風土があり、運営に良い影響を与えている。コロナ禍ではあるが、高校や保育園ともそれなりに交流を継続し、町会の役員として地域交流を図っている。ホームは駅から徒歩8分のところに位置するが、周辺には緑が残っており、2階の居室にはさすがに風が通り抜ける良い環境の立地にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①持てる力を発揮できる暮らし②生きていると実感できる暮らし③笑顔と笑い声のある暮らし、以上の理念を掲示し、ケアに繋げるよう努力している。	理念は玄関とリビングに掲示している。3つの理念の一つを順番に毎月の目標に掲げ、定例会議にて実践できているかを確認し合っている。日常での利用者や接する中で出てきた事柄を共有し合いながら、職員全員が理念の持つ意味を身につけ、自分の行動が理念に沿っているかどうか理解できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年度は感染予防のため 行動を自粛していたが 例年 町会の行事・近隣高校の行事への参加、地元の高校の福祉科の実習生をて受入れるなど、地域活動に参加している。又、近隣の美容院、飲食店、スーパー等を利用し、友好に努めている。	コロナ禍で地域とはイベントや直接交流は中止となっている。一方、当ホームは町会の役員を任せられ、各戸への挨拶回りなどで地域との関わりが近くなった。例年行っている高校実習生の受入れが困難なため講師として授業に赴いた。保育園行事の写真や、誕生日カードをいただくなど、保育園とは間接的に交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた時に支援方法などを伝えたり事業所として持っている情報を知らせている。又、地域に積極的に出て、認知症の人々の生活実態を理解してもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度は感染予防のため 文書での開催となったが町会長、民生委員、地域包括支援職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。近隣施設(保育園・高等学校)、他事業所の責任者を招聘し意見交換の場としている。地域に還元できるように勉強会を実施している。	役所の指導のもと書面での運営推進会議を行っている。関係者への案内と意見の提出をいただき、職員が検討をした内容と報告事項を議事録として配布している。関係者は、東部高齢者いきいきセンター、民生委員2名、町会長、老人会会長、保育園園長、高校校長、介護相談員、家族と多様で好ましいメンバー構成となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	個別の用件及び市主催の研修会・説明会等で市職員と話し合う他、利用者等の要望に応えるため改善点を話し合う介護相談員と事業主団体との意見交換会に出席し市職員と意見交換を行い協力関係を構築している。	現状はコロナ感染防止上、書類申請などは郵送として市職員との面談が少なくなっている。コロナ感染防止に対する相談事は多い。また、重度障害の難聴の利用者に対する補聴器の購入支援や購入先、通院でのタクシー代補助など細やかな相談に乗ってもらうなどの協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設責任者を含め千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修に積極的に受講し、そこで学びを職場にてフィードバックして、常に身体拘束をしないケアを実施している。またミーティングにて身体拘束をしないケアの正しい理解を深めている。	3ヶ月に1回、定例会議の中で研修を行っている。身体拘束廃止委員会は医師、看護師、家族2名、グループ企業スタッフ、ホーム職員の構成で行っていたが、感染防止のため意見の聞き取りをして内部職員だけで行い、検討された情報は共有しケアに活かされている。ここでは「本人の気持ちになって考えること」が合い言葉になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、県の研修に職員を送り、その研修報告と勉強会を実施。尊厳と虐待について共通理解を深め、ホームの中で虐待が見過ごされることのないよう、スタッフ間で常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて行政の研修に参加している。又、成年後見制度を利用されている入居者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い合意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が意見、要望を言い易い雰囲気作りを常に考えている。ご家族の面会時または月1回の家族へのお便りには利用者の日常の様子を丁寧に伝え、要望を伺うなど話し易い雰囲気作りを常に心掛けている。	感染を警戒して家族の面会は減っているが、来所時にはホーム長が面談し要望を聞くようにしている。運営推進会議の前にアンケートを送り、要望や意見を収集して運営に反映させている。また、利用者からの食べたいものや行きたい所の要望を大きな紙に書き出して、それを皆で考え実現させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設責任者は管理者を兼務して日常業務にも携わり、毎日の申し送り時、月例ミーティング等で職員からの意見・提案事項を皆で協議し、実務に反映させるよう務めている。	意見や提案が自由に出せる雰囲気が備わっており、日常業務内や会議の場でも積極的な発言がある。行事のやり方の工夫、休憩時間のスタートの変更、壁紙の張り替え場所の優先等々を職員間で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設責任者は、職員が気持ちよくやりがいをを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修・セミナー等に職員を参加させている。社内においては事例検討や介護技術に関して、必要のある都度実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者GH協議会に加入し、研修会・施設見学会に参加し交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。又ケアマネは介護支援専門委員協議会に属し 同様に取り組んでいる。また運営推進会議に他事業所の責任者を招聘し意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご本人の言動や表情などに注意を払いながらご希望を聴くと同時に、ご家族からの情報をもとに、ご本人が安心して生活できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを蜜にとることを心がけ、思いや不安を受け止め、ご要望を聴きだし、ご家族との良い関係作りに務めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援については、ご家族と相談しその対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除 調理など暮らしを共に行う中で職員入居者、それぞれの良さが混じり合い 穏やかで家族のような関係ができていと思う			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日常生活、変化をお知らせし、面会時には外出・散歩の同行、居室でゆっくり過ごして頂くことや 本人の望むケアを共に探ったりしケアの共有を目指している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が共に支える気持ちを継続していけるよう配慮しながら、親戚・友人等の連絡や面会など、いつでも受入れている。手紙のやり取り、電話の取次ぎ等をして、交流を図っている利用者もいる。	コロナ禍での制限があり支援も限定的にならざるを得ない状況にある。人と接触しないで馴染みを途切れさせないために、住んでいた家の周辺へのドライブや、花見も車の中から見てもらうなどした。家の近くを通ると「ここは誰その家だ」「ここに買い物に来ていた」と昔を思い出して喜んでいるようだ。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の細やかな配慮と支援で、利用者同士が労わり合い、和やかな関係を築いていけるよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた方から介護内容に関する相談を受けたり、不安を聞かせて頂くこともあり、退去後も相談や支援に努めている。又入居に至らなかった方の家族からの相談も含め対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での 表情 動作 言葉の中に表れる「その人の思い、意向」をくみ取れるように努め じっくりと話を聴く時間を取る様職員全員が努めている。	職員は、日常の生活の中で利用者一人一人の表情やしぐさ、言葉などから、要望や意向を把握して支援にあたっている。利用者情報は、申し送りや定例会議等で報告されて共有し、支援に役立てている。入居したばかりの利用者で「オーイオーイ」と頻りに呼ぶ人がいたが、職員全体でいつでもそばに行き要望を聞きましよう話し合い、結果、2か月で落ち着いた人がいた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に入居者とのコミュニケーションを図り、日常会話や昔話の中から現れるその人らしさの発見やご家族や前施設やケアマネとの連絡を密にし得た情報を 職員間で共有するなど「その人」を知ることにつとめている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で 表情や 体調など観察し 一人一人の生きる力の把握 又その力の引き出し方等 こまめに話し合い共有している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人 家族の意向を伺い 職員からの情報や専門職の意見も交換しあい それらの情報をもとに介護計画を作成している。	介護支援専門員は、申し送りや定例会議での情報収集の他、日々の支援にも関わっているため利用者一人一人の状況をよく把握している。特に変化がない時は2か月ごとにモニタリングを行い、半年ごとに介護計画の見直しを図っている。見直し時期には、家族や協力医・訪問看護師からも情報収集しカンファレンスを経て介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの変更やその結果など 本人の日々の状況を事実に基づいて記録し 毎日の申し送りの中で職員間で共有し より良いケアに役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者や家族の要望を伺い、家族 スタッフ間で検討を重ね 専門職の意見も聞きながら個別の対応ができています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和2年度は感染予防のため 自粛中だが例年はボランティアによるイベントや町会 近隣の施設 高校などによるイベントへの参加をしたりし 又 近隣のショップを活用し好みの物の購入など 日々の暮らしが豊かになる様		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で常に健康状態をチェックし 必用時には電話での相談や他病院への紹介等行ってもらっている。訪問診療以外の受診には必要時同行したり 情報を伝えるなどし 必要な医療が受けられるようにしている。	月2回、協力医及び看護師の訪問診療があり、その他、週2回訪問看護事業所から看護師の訪問があり、職員は医療職と連携して利用者の健康管理にあたっている。訪問歯科は、必要時に依頼している。協力医療機関にない診療科の受診は、家族と協力して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「看護師との連絡ファイル」で入居者に関しての気づきや情報、相談事を記録し アドバイスを受け適切な対応ができています。さらに24時間看護師との電話連絡が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護介護サマリーで必要な情報を提供し 入院中は見舞いに伺い 状態を把握し 家族、病院側と情報を交換し できるだけ早期に退院できる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に応じ ご家族とお話し合いを段階的に行っている。必要時は看護師同席のもと 十分な説明で 家族 本人の不安解消に努め 方針を共有しながら支援している。	ホームは「重度化の場合における対応及び看取りに関する指針」を用意しており、入居時に利用者及び家族に分かりやすく説明している。また、「終末期に関する本人、家族の意思確認」の書面で、終末期が近くなった時に意向を再確認している。先月、看取りがあったが、その人の意向を尊重し、状態のいい時にドライブや外食支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送や災害時対応など、月1回の定例会で状況に応じて話し合いを行っている。30年度は消防による 救急救命講習を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者交代により 防火下責任者不在状態だが コロナ禍にて 新責任者の講習が受けられない状況にて 避難訓練等は実施できていない。講習が受けられ次第訓練実施予定。地域との協力体制は 運営推進会議や町内会活動で 協力体制を構築している。	約1年前に管理者交代があり、コロナ禍において防火防災管理者講習を受講できず、防災管理者指導での避難訓練ができていない。しかし、これまでの実施体験や地域の消防署の指導のもとに災害対策の研修を年2回計画している。運営推進会議に参加する近隣の保育園や高等学校、近所の方々による協力体制は構築している。	管理者は、地域の消防署で行う防火防災管理者講習を受講することが望ましいが、一般社団法人等が実施している講習会等の情報を収集し、早期の資格取得が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「1人1人に合った接し方」「その人の自尊心を損なわない」対応を心がけ 朝夕の申し送り時や 定例会で話し合い 個人の尊重とプライバシー保護が介護の基本となる様心がけている。	職員一人一人がホームの理念を理解しており、日常の支援は理念に基づいて利用者の人権を尊重した関りを行っている。拒否があった場合は、その理由を職員全体で考えて、利用者の思いを把握して支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者の中にはいり、自己を表現しやすいように助言や対話を心がけ、自己決定できるように工夫している。小さな出来事でも本人の決定ができ それらが希望の表出により繋がって行けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の自己決定やペースを尊重し 傾聴しながら対応している。その中から体調不良や心配事等を聞き出せたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1~2ヶ月に1度 要望時近隣の美容院に行っている。自立の方はもとより 令和2年度は自粛中だが 例年 介助の必要な方にもご自分で衣類や好みの小物など選べる様促し 近隣の店舗での買い物支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人 その人の力に合った 手伝いを一緒に 行い みんなで和気あいあいと準備や片づけをしている。職員は一人一人の持っている力を引き出す努力をしている。	食材は、専門業者から取り寄せてホーム内で調理して食事を提供している。また、ホームの畑でとれた野菜を使ったり、足りない調味料やおやつは利用者と一緒にドライブがてら買い物に出かけて調達している。食事の準備や片付けは、利用者皆が率先して参加し、会話を楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は記録し、健康状態の参考とし、制限、嚥下状況、好み等を把握し、個々に応じた対応を努めており、バランスの良い食生活の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後 職員による義歯洗浄は週2回行っている。個々人に合った口腔ケアの自立を支援し 歯科医とも連携しながら必要なフォロー(一部介助やその人に合った器具の準備)を行っている。外出後は必ずうがい手洗を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位の取れる方は全員トイレにて排泄している。個々人の排泄状況に応じ 誘導介助し 自分でやれるところは可能な限りやって頂き 自立に向けて支援している。下着(リハパン 布パンツ)も昼夜の状態に合わせて着替える等 細目に対応している。	便秘にならないように食事や水分摂取、運動不足に気をつけて支援している。個別の排泄支援は自立支援に基づいて個々の状況に合わせて、介護計画がたてられ、トイレでの排泄を基本に支援している。トイレ誘導の言葉かけは、プライバシーに配慮したものにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事 水分の摂取 適度な運動の他 おやつ作りに乳酸菌や 牛乳繊維質ものを工夫するなど服薬のみに頼らない 取り組みなどで個々人に合った便秘解消を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は希望によりいつでも変更できる。入浴時間も個々の好みの時間 入浴できる。入浴剤が数種類ある時は好みの物を選び楽しめる。	入浴支援は基本週2回行っているが、汚れた時はその都度シャワーを行い、清潔を保持している。入浴時に利用者に入浴剤を選んでもらい、浴槽に入れてもらうが、利用者は選ぶ楽しみと香りの楽しみで満足した表情となる。複数介助が必要な人には職員が協力し合って湯船につかってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの入居者がご自分のペース、健康状態にあわせ自由に就寝、良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は個人の「処方箋」「看護師との連絡帳」に記述有り いつでも確認できる。服薬の変更や症状の変化等 職員間で共有し 必要時24時間体制で看護師に相談できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、日常の仕事、外出など無理をすることなく楽しみ、それぞれの役割も自然にできている。買い物外出の折には、好きなおやつ、食品など自由に選び楽しめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩 車での買い物支援 時々の外食などなるべく外出できる様支援している。例年地域のお祭りやイベント参加時は地域の方がお誘いください 駐車場を確保して下さる等 協力頂けているが今年は自粛している。可能な限り本人の希望に添い家族に相談しながら外出したり検討したりしている。	ホームの周辺は、交通量が少なく静かな環境である。天気の良い日は、交替で散歩に出かけて、なじみの近隣の人や保育園児、高校生らと挨拶を交わしている。車で買い物に出かけた時は、希望に応じて自宅周辺や仲の良い友人の家の近くを回り喜ばれている	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持たれている方もいる。小遣いをご家族からお預かりしている方も外出や買い物に同行した折にはご自分でその中から支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に交流ができて、本人の意向に添えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓と広いテラスが有り 屋内にいながら季節の移り変わりを楽しめる。周囲は自然豊かで 閑静な住環境であり ゆったりと過ごしている。 季節季節に合った飾りつけを入居者 職員共に行い楽しんでいる。	入居者は、普段は居間に集まって食べたいもののお話や、今日は何をしたいかなどのおしゃべりを楽しんだり、歌を歌ったり体操して過ごしている。季節ごとには、壁に飾る貼り絵を工作し、習字を楽しむこともある。職員は入居者が気持ちよく暮らせるように環境を整え、共に活動している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングフロアで集い、一人一人ソファや椅子、テラスでの日光浴とその時々にご自分にあつた場所ですごせている。個々人がやりたいことを自由にやりながら過ごせる雰囲気もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いクローゼットと 使いやすい棚が有り 個々人の好みに合った飾りつけや 使い方をしている。家具や置物も本人や家族と相談し好みに配置している。	利用者の居室は清潔に整えられている。利用者の各居室の窓からは畑が見えたり、隣接する高校の樹木が見えたり、保育園が見え子供たちの声が聞こえる。利用者は自分の居室に満足している。居室には、家族の写真や保育園児から頂いたカードや折り紙が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活をしていただけるよう、エレベーター、すり、スロープを備え、できるだけ自立で動けるよう配慮している。必要な個所には張り紙を行い 迷うことなく自力で移動できる様工夫している。		